

平成27年度 医動物・種類同定検査のまとめ(10～3月)

医動物担当では、人の健康を害し、人に不快感を与える昆虫、ダニ、寄生虫等の試験・調査・研究を行っています。

その中の一つとして、市民、各区福祉保健センター、各市場検査所、事業者などの依頼を受け、昆虫類を中心とした種類同定検査を行っています。昆虫類の種類を同定することによって、発生源、発生時期、人に対する害などが分かるため、効果的な対策を立てることにつながります。

平成27年10月から平成28年3月の種類同定検査件数は、9件でした。内訳は昆虫類8件(チョウ目1件、コウチュウ目2件、ハチ目3件、ハエ目2件)、その他の節足動物1件(クモ目1件)でした。

主な検査結果の詳細は以下のとおりです。

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
アシナガバチの巣にハチでない幼虫が多数みられた	 <p>幼虫、乳白色、約14mm</p>	シマメイガ亜科 (チョウ目)	メイガ科のものは重要な害虫が多く含まれ、幼虫の食害状態も多様である。シマメイガ亜科の幼虫は小枝に糸を張り、群集して枯葉を食したり、貯穀や蜂の巣を食したりする種が含まれている。生きた植物を食することは少ない。
寝室と居間に黒い甲虫と幼虫がみられる	 <p>幼虫、淡褐色、10mm</p>  <p>成虫、黒褐色、6mm</p>	ガイマイゴミムシダマシ (コウチュウ目)	穀物倉庫や精米、製粉、飼料工場などの隅に溜まったゴミの中でみられる。穀粒を加害することは少ないが、碎米、穀粒、これらの加工品などを食害する。
受水槽の水面に多数の翅アリが浮遊していた	 <p>成虫(雄有翅虫)、 黒褐色、2mm</p>	ケアリ属 (ハチ目)	小型から中型のアリ。本属は世界に広く分布し、裸地から森林にかけてごく普通に見られる。多くの種でアブラムシやカイガラムシ類が出す甘露を吸汁し、またこれらと強い共生関係を持つものも多い。顕著なアリ道を作ることも知られている。

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
和室の畳の上に虫がみられた	 成虫、黒色、約1.5mm	寄生蜂の一種 (ハチ目)	ハチ目の寄生性天敵を寄生蜂という。農業上重要な天敵となっているものが多い。チョウ目、コウチュウ目、ハエ目、カメムシ目の卵や幼虫に寄生するものが多い。貯蔵食品害虫であるコクゾウやシバンムシの幼虫に寄生する種もある。
自宅や近隣の網戸と洗濯物にハエがみられる	 成虫、黒青色、10mm	オオクロバエ (ハエ目)	幼虫はごみ、動物死体、便池などから発生する。本州の平地では成虫は春と秋に出現する。
家の中に虫が多数入ってくる		ハエ類、ミズアブ類、ハナアブ類、ハエ目の一種 (ハエ目) アリ類、ハチ類 (ハチ目)	ハエ類の幼虫は、植物・動物物質などあらゆる有機物から発生する。ミズアブ類はごみ溜めなどから発生する。 アリ類の働きアリは、建物の中に食物を求めて侵入することがある。また有翅虫(雌雄成虫)は結婚飛行のため巣から飛び立ち、飛行を終えた個体が灯火に魅かれ、屋内に侵入することがある。
自宅前でクモを採取した	 成体、黒褐色、8mm	クモ目の一種 (クモ目)	クモ類の生活の場は、地中、地上、家屋内のなど多岐にわたる。主に昆虫を捕食し、農業害虫や衛生害虫の天敵である。網を張る種類と網を張らない徘徊型の種類がいる。

【 微生物検査研究課 医動物担当 】